

【NVIDIA プレスリリース】

2019 年会計年度第 4 四半期の業績を発表

- 第 4 四半期の売上高は前年同期比 24% 減の 22 億 1,000 万ドル
- 通年の売上高は過去最高の 117 億 2,000 万ドルで、前年度より 21% 増
- ゲーミング、データセンター、プロフェッショナル ビジュアライゼーションおよびオートモーティブの通年の売上高が過去最高を記録

カリフォルニア州サンタクララ (2019 年 2 月 14 日) –NVIDIA (NASDAQ: NVDA) は、2019 年 1 月 27 日に終了した第 4 四半期の売上高が 22 億 1,000 万ドルとなったことを発表しました。これは、前年同期の 29 億 1,000 万ドルから 24% 減、前四半期の 31 億 8,000 万ドルから 31% 減になります。

米国 GAAP に基づく業績では、第 4 四半期の希薄後 1 株当たりの利益は 0.92 ドルと、前年同期の 1.78 ドルから 48% 減、前四半期の 1.97 ドルから 53% 減となりました。非 GAAP に基づく希薄後 1 株当たりの利益は 0.80 ドルと、前年同期の 1.72 ドルから 53% 減、前四半期の 1.84 ドルから 57% 減となりました

2019 年会計年度は、売上高が 117 億 2,000 万ドルで、前年度の 97 億 1,000 万ドルより 21% 増となりました。米国 GAAP に基づく希薄後 1 株当たりの利益は 6.63 ドルで、前年度の 4.82 ドルから 38% 増加しました。非 GAAP に基づく希薄後 1 株当たりの利益は 6.64 ドルで、前年度の 4.92 ドルから 35% 増加しました。

NVIDIA の創業者/ CEO であるジェンスン ファン (Jensen Huang) は、以下のように述べています。「素晴らしい 1 年の締めくくりは大波乱となりました。仮想通貨ブーム後の過剰な流通在庫と最近のエンドマーケット環境の悪化との組み合わせが、残念な四半期業績の主要な原因となりました。

このような停滞があったにもかかわらず、NVIDIA の根本的なポジションと、参画しているマーケットは強いままです。NVIDIA が切り開いてきたアクセラレーテッド コンピューティング プラットフォームは、人工知能や自律走行車、ロボティクスといった、世界で最も重要で、最も成長の早い業界のいくつかで中心的な位置を占めています。NVIDIA では、持続的な成長に戻るものと自信を持って予想しています」

資本の還元

NVIDIA は 2019 年会計年度、自社株買いの 15 億 8,000 万ドルと四半期現金配当の 3 億 7,100 万ドルを通して、19 億 5,000 万ドルを株主に還元しました。

NVIDIA では、2020 年会計年度末に 30 億ドルを株主に還元する予定としており、そのうちの 7 億ドルの自社株買いは 2019 年会計年度の第 4 四半期に完了しています。自社株買いと現金配当を組み合わせることで、残りの 23 億ドルを 2020 年会計年度末までに株主に還元する予定としています。

NVIDIA は、2019 年 3 月 1 日を配当基準日として、2019 年 3 月 22 日に 1 株当たり 0.16 ドルの次回四半期現金配当を支払う予定です。

2019 年会計年度第 4 四半期の概要

四半期財務情報 (GAAP ベース) の比較					
(単位: 百万ドル 1 株当たりのものを除く)	Q4 FY19	Q3 FY19	Q4 FY18	Q/Q	Y/Y
売上高	\$2,205	\$3,181	\$2,911	31% 減	24% 減
売上高総利益率	54.7%	60.4%	61.9%	570 bps 減	720 bps 減
営業費用	\$913	\$863	\$728	6% 増	25% 増
営業利益	\$294	\$1,058	\$1,073	72% 減	73% 減
純利益	\$567	\$1,230	\$1,118	54% 減	49% 減
希薄後 1 株当たりの利益	\$0.92	\$1.97	\$1.78	53% 減	48% 減

四半期財務情報 (非 GAAP ベース) の比較					
(単位: 百万ドル 1 株当たりのものを除く)	Q4 FY19	Q3 FY19	Q4 FY18	Q/Q	Y/Y
売上高	\$2,205	\$3,181	\$2,911	31% 減	24% 減
売上高総利益率	56.0%	61.0%	62.1%	500 bps 減	610 bps 減
営業費用	\$755	\$730	\$607	3% 増	24% 増
営業利益	\$479	\$1,210	\$1,202	60% 減	60% 減
純利益	\$496	\$1,151	\$1,081	57% 減	54% 減
希薄後 1 株当たりの利益	\$0.80	\$1.84	\$1.72	57% 減	53% 減

2019 年会計年度の概要

財務情報 (GAAP ベース) の比較			
(単位: 百万ドル 1 株当たりのものを除く)	FY19	FY18	Y/Y
売上高	\$11,716	\$9,714	21% 増
売上高総利益率	61.2%	59.9%	130 bps 増
営業費用	\$3,367	\$2,612	29% 増
営業利益	\$3,804	\$3,210	19% 増
純利益	\$4,141	\$3,047	36% 増
希薄後 1 株当たりの利益	\$6.63	\$4.82	38% 増

財務情報 (非 GAAP ベース) の比較

(単位: 百万ドル 1 株当たりのものを除く)	FY19	FY18	Y/Y
売上高	\$11,716	\$9,714	21% 増
売上高総利益率	61.7%	60.2%	150 bps 増
営業費用	\$2,826	\$2,227	27% 増
営業利益	\$4,407	\$3,617	22% 増
純利益	\$4,143	\$3,085	34% 増
希薄後 1 株当たりの利益	\$6.64	\$4.92	35% 増

2020 年会計年度第 1 四半期については、以下のように予想されます。

- 売上高は、22 億ドル $\pm 2\%$ となる見込みです。
- 売上高総利益率は、GAAP ベースが $58.8\% \pm 0.5\%$ 、非 GAAP ベースが $59.0\% \pm 0.5\%$ となる見込みです。
- 営業費用は、GAAP ベースが約 9 億 3,000 万ドル、非 GAAP ベースが約 7 億 5,500 万ドルとなる見込みです。
- GAAP ベースおよび非 GAAP ベースのその他の収益および費用は、約 2,000 万ドルの利益となる見込みです。
- GAAP 税率および非 GAAP 税率は、ともに $10\% \pm 1\%$ となる見込みです (個別項目は除く)。GAAP ベースの個別項目は、四半期ベースで変動すると NVIDIA が予想する、株式報酬に関連した税制優遇措置の過不足を含みます。

2020 会計年度については、売上高は横ばいか、わずかに減少するものと予想されています。

最近のハイライト

第 3 四半期の終了以降、NVIDIA は以下のような領域で発展を遂げました。

データセンター:

- Google Cloud Platform での NVIDIA® T4 GPU のパブリック ベータ提供が開始され、米国、ヨーロッパ、ブラジル、インド、日本およびシンガポールで利用可能になると発表しました。
- 業界初の客観的 AI ベンチマーク セットである MLPerf のリリースにより、AI 性能で 6 つの記録を樹立しました。
- GPU によって高速化したデータセンター向けライブラリである NVIDIA の RAPIDS™ に、ハイパースケール データセンターで機械学習ワークロードのデプロイと管理を行う、Kubernetes ベースのプラットフォームである Kubeflow Pipeline を統合させることを Google とともに発表しました。

ゲーミング:

- [GeForce RTX™ 2060](#) GPU をローンチし、比類なき性能とレイ トレーシングと AI によって向上されたグラフィックスを、数千万人のゲーマーの手の届くものとなりました。
- NVIDIA GeForce RTX GPU を搭載した、100 以上の構成が可能な、[40 以上もの新しいゲーム用ノートパソコン](#)を公開しました。
- NVIDIA が検証し、ドライバーを最適化した、G-SYNC 互換モニターによって、[G-SYNC™ エコシステム](#)を拡大しました。
- 初のリアルタイム レイ トレーシング ゲームである Battlefield V が DLSS AI スーパーサンプリング テクノロジーにも対応すること、高い期待を集めているゲーム Anthem に DLSS が実装されること、ならびに中国で最も人気のある MMO ゲームである Justice にレイ トレーシングと DLSS が実装されることを発表しました。

プロフェッショナル ビジュアライゼーション:

- 数百万人のミッドレンジ ワークステーション ユーザーがレイ トレーシングを利用できるようにする、[Quadro RTX™ 4000](#)を導入しました。
- RED Digital Cinema とのコラボレーションを通じて、開発者およびスタジオが追加の動画処理をせずに 8K 動画を編集できるようにする、NVIDIA CUDA® 搭載の [REDCODE RAW デコード SDK](#) を発表しました。

オートモーティブ:

- 世界初のレベル 2+ 自動運転システムとなる [NVIDIA DRIVE™ AutoPilot](#) を導入し、ティア 1 サプライヤーの Continental と ZF が NVIDIA DRIVE をベースとしたソリューションを 2020 年に投入すると発表しました。
- [Mercedes-Benz](#) とともに、同社の次世代車輛向けの中央集約的なコンピューティング アーキテクチャを構築し、ソフトウェア定義型の AI カーを実現させるという発表を行いました。

エッジ コンピューティング:

- 320 TOPS の演算性能によって次世代の自律動作マシンの構築を可能にする、手のひらサイズのモジュール、[NVIDIA Jetson AGX Xavier™](#) をローンチしました。
- [シアトルに AI と ロボティクス研究のためのラボ](#)をオープンしました

NVIDIA CFO によるコメント

NVIDIA のエグゼクティブ バイス プレジデント兼最高財務責任者 (CFO) であるコレット クレス (Colette Kress) による本四半期に関するコメントを <https://investor.nvidia.com/home/default.aspx> でご覧いただくことができます (英語)。

カンファレンス コールおよび Web キャスト情報

2019 年会計年度第 4 四半期および 2019 年会計年度の決算および現在の財務見通しについてのアナリストおよび投資家とのカンファレンス コールのライブ Web キャスト (視聴のみモード) は、NVIDIA のインベスター リレーションズ

Web サイト、<https://investor.nvidia.com/home/default.aspx> でアクセス可能です。Web キャストは録音され、NVIDIA の 2020 年会計年度第 1 四半期についてのカンファレンス コールが開催されるまで再生できます。

非 GAAP 財務指標について

NVIDIA では、GAAP ベースの要約連結損益計算書と要約連結貸借対照表に加え、一部の項目については非 GAAP ベースの財務指標を使用しています。使用している非 GAAP 財務指標は、非 GAAP ベースの売上高総利益、非 GAAP ベースの売上高総利益率、非 GAAP ベースの営業費用、非 GAAP ベースの営業利益、非 GAAP ベースのその他の利益（費用）、非 GAAP の支払法人税、非 GAAP ベースの純利益、非 GAAP ベースの希薄後 1 株当たり純利益あるいは利益、非 GAAP ベースの希薄後株式数、ならびにフリー キャッシュ フローです。また、現在と過去の財務指標が比較しやすいように、GAAP ベースの財務指標と非 GAAP ベースの財務指標がどのような関係にあるのかも明らかにしています。この情報を活用すれば、関連する GAAP 財務指標から、株式報酬費用、和解費用、買収関連およびその他の費用、関連会社以外への投資による損益、減償償却に関連する支払利息、債務関連費用、これらの項目に関連して発生する税金の影響（該当する場合）、およびに法人税の税制改革による税効果を除外することができます。非 GAAP ベースの希薄後 1 株当たり純利益は加重平均株式数を用いて算出していますが、その際、社債ヘッジの反希薄効果は考慮してあります。フリー キャッシュ フローは、営業活動の収益から不動産や設備、無形資産の購入費を差し引いた GAAP ベースのキャッシュ純額として算出されます。非 GAAP 財務指標の提示は、過去から続く財務状況の変遷を理解しやすくするものであると NVIDIA では考えています。なお、NVIDIA が提示している非 GAAP 財務指標はそれのみを独立して見るべきものでもなければ、GAAP ベースで用意された業績を代替するものでもありません。また、NVIDIA が提示する非 GAAP 財務指標は、他社が提示する非 GAAP 財務指標とは異なる可能性があります。

NVIDIA CORPORATION

要約連結損益計算書

(単位: 百万ドル 1 株当たりのものを除く)

(未監査)

	3 か月累計		12 か月累計	
	2019 年 1 月 27 日まで	2018 年 1 月 28 日まで	2019 年 1 月 27 日まで	2018 年 1 月 28 日まで
売上高	\$ 2,205	\$ 2,911	\$ 11,716	\$ 9,714
売上原価	998	1,110	4,545	3,892
総利益	1,207	1,801	7,171	5,822
営業費用				
研究開発費	647	508	2,376	1,797
販売費・一般管理費	266	220	991	815
営業費用合計	913	728	3,367	2,612
営業利益	294	1,073	3,804	3,210
受取利息	42	20	136	69
支払利息	(14)	(15)	(58)	(61)
雑費用（純額）	2	-	14	(22)
その他利益（費用）合計	30	5	92	(14)
法人税費用控除前利益	324	1,078	3,896	3,196
法人税費用（収益）	(243)	(40)	(245)	149

純利益	\$ 567	\$ 1,118	\$ 4,141	\$ 3,047
-----	--------	----------	----------	----------

1 株当たり純利益:

希薄化前	\$ 0.93	\$ 1.84	\$ 6.81	\$ 5.09
希薄化後	\$ 0.92	\$ 1.78	\$ 6.63	\$ 4.82

1 株当たりの計算に用いた加重平均株式数:

希薄化前	609	606	608	599
希薄化後	619	628	625	632

NVIDIA CORPORATION

要約連結貸借対照表

(単位: 百万ドル)

(未監査)

2019年1月27日 2018年1月28日

資産

流動資産:

現金、現金同等物および市場性のある有価証券	\$ 7,422	\$ 7,108
売掛金勘定 (純額)	1,424	1,265
棚卸資産	1,575	796
前払費用およびその他の流動資産	136	86
流動資産合計	10,557	9,255

固定資産 (純額)

のれん	1,404	997
無形固定資産 (純額)	618	618
その他の資産	45	52
資産合計	668	319
	\$ 13,292	\$ 11,241

負債、転換社債転換債務および株主資本

流動負債:

買掛金勘定	\$ 511	\$ 596
未払およびその他の流動負債	818	542
短期転換社債	-	15
流動負債合計	1,329	1,153

長期負債

その他長期負債	1,988	1,985
負債合計	633	632
	3,950	3,770

株主資本

株主資本	9,342	7,471
負債、転換社債転換債務および株主資本合計	\$ 13,292	\$ 11,241

NVIDIA CORPORATION
GAAP ベースから非 GAAP ベースの財務情報の調整
(単位: 百万ドル 1 株当たりのものを除く)

(未監査)

	3 か月累計			12 か月累計	
	2019 年 1 月 27 日まで	2018 年 10 月 28 日まで	2018 年 1 月 28 日まで	2019 年 1 月 27 日まで	2018 年 1 月 28 日まで
GAAP ベースの総利益	\$ 1,207	\$ 1,921	\$ 1,801	\$ 7,171	\$ 5,822
GAAP ベースの総利益率	54.7%	60.4%	61.9%	61.2%	59.9%
株式ベースの報酬費 (A)	6	5	7	27	21
和解費用	21	14	1	35	1
非 GAAP ベースの総利益	\$ 1,234	\$ 1,940	\$ 1,809	\$ 7,233	\$ 5,844
非 GAAP ベースの総利益率	56.0%	61.0%	62.1%	61.7%	60.2%
GAAP ベースの営業費用	\$ 913	\$ 863	\$ 728	\$ 3,367	\$ 2,612
株式ベースの報酬費(A)	(150)	(135)	(119)	(530)	(370)
買収関連およびその他の費用	(1)	3	(2)	(2)	(15)
和解費用	(7)	(1)	-	(9)	-
非 GAAP ベースの営業費用	\$ 755	\$ 730	\$ 607	\$ 2,826	\$ 2,227
GAAP ベースの営業利益	\$ 294	\$ 1,058	\$ 1,073	\$ 3,804	\$ 3,210
営業利益に対する非 GAAP 調整の影響額合計	185	152	129	603	407
非 GAAP ベースの営業利益	\$ 479	\$ 1,210	\$ 1,202	\$ 4,407	\$ 3,617
GAAP ベースのその他利益 (費用)	\$ 30	\$ 23	\$ 5	\$ 92	\$ (14)
関連会社以外への投資による利益	(1)	(2)	(2)	(12)	(2)
減債償却に関連する支払利息	-	-	-	2	3
債務関連費用	-	-	2	-	20
非 GAAP ベースのその他利益 (費用)	\$ 29	\$ 21	\$ 5	\$ 82	\$ 7
GAAP ベースの純利益	\$ 567	\$ 1,230	\$ 1,118	\$ 4,141	\$ 3,047
非 GAAP 調整の税引前合計影響額	184	150	129	593	428
非 GAAP 調整の法人税に対する影響額 (B)	(25)	(91)	(33)	(223)	(257)

法人税の税制改革による 税効果	(230)	(138)	(133)	(368)	(133)
非 GAAP ベースの純利益	\$ 496	\$ 1,151	\$ 1,081	\$ 4,143	\$ 3,085
希薄化後 1 株当たり純利益					
GAAP ベース	\$ 0.92	\$ 1.97	\$ 1.78	\$ 6.63	\$ 4.82
非 GAAP ベース	\$ 0.80	\$ 1.84	\$ 1.72	\$ 6.64	\$ 4.92
希薄後 1 株当たり純利益の 計算に用いた加重平均株式 数					
GAAP ベース	619	625	628	625	632
債券ヘッジによる反希薄化 効果	-	-	(1)	(1)	(5)
非 GAAP ベース	619	625	627	624	627
GAAP ベースの営業活動による キャッシュ純額	\$ 898	\$ 487	\$ 1,358	\$ 3,743	\$ 3,502
固定資産および無形資産 の購入	(203)	(150)	(416)	(600)	(593)
フリー キャッシュフロー	\$ 695	\$ 337	\$ 942	\$ 3,143	\$ 2,909

(A) 株式ベースの報酬は以下を含む:	3 か月累計			12 か月累計	
	2019 年 1 月 27 日まで	2018 年 10 月 28 日まで	2018 年 1 月 28 日まで	2019 年 1 月 27 日まで	2018 年 1 月 28 日まで
売上原価	\$ 6	\$ 5	\$ 7	\$ 27	\$ 21
研究開発費	\$ 99	\$ 88	\$ 73	\$ 336	\$ 219
販売費・一般管理費	\$ 51	\$ 47	\$ 46	\$ 194	\$ 151

(B) GAAP 会計基準 (ASU 2016-09) における株式報酬に関連した税制優遇措置の過不足を考慮した、非 GAAP 調整の法人税に対する影響額。

NVIDIA CORPORATION
GAAP ベースから非 GAAP ベースの見通しの調整

FY2020
第 1 四半期
見通し

GAAP ベースの総利益率	58.8%
株式ベースの報酬の影響額	0.2%
非 GAAP ベースの総利益率	59.0%

FY2020
第 1 四半期
見通し

(単位: 百万ドル)

GAAP ベースの営業費用	\$	930
株式ベースの報酬費用、買収関連費、およびその他の費用		(175)
非 GAAP ベースの営業費用	\$	755

NVIDIA について

1999 年における NVIDIA (NASDAQ 表示: NVDA)による GPU の発明は、PC ゲーミング市場の成長に爆発的な拍車をかけ、現代のコンピュータ グラフィックスを再定義し、並列コンピューティングに革命的变化を起こしました。最近では、GPU ディープラーニングが最新の AI (次世代コンピューティング) に火をつけ、世界を知覚し理解することができるコンピュータ、ロボット、自律走行車の脳として GPU は機能しています。詳細は、こちらのリンクから：www.nvidia.co.jp/

本件に関するお問い合わせ先:

エヌビディア 広報/マーケティング コミュニケーションズ

中村かおり Email アドレス：knakamura@nvidia.com TEL: 03-6743-8712吉川香葉子 Email アドレス：kyoshikawa@nvidia.com TEL: 080-8891-3352

エヌビディア PR 事務局

担当：清水 Email アドレス：nvidia@jspin.co.jp

Tel：03-5269-1038 Fax：03-5269-1039

1 年の締めくりが大波乱となり、仮想通貨ブーム後の過剰な流通在庫と最近のエンドマーケット環境の悪化との組み合わせが、四半期業績の不調の原因となったこと、NVIDIA の根本的なポジションと参画しているマーケットは強さを維持していること、NVIDIA が切り開いてきたアクセラレーテッド コンピューティング プラットフォームは、世界で最も重要で、最も成長の早い業界のいくつかで中心的な位置を占めていること、NVIDIA は持続的な成長に戻るものと予想していること、NVIDIA の 2020 年会計年度末の資本の還元の予測、NVIDIA が次の四半期に配当を行うこと、NVIDIA の 2020 年会計年度第 1 四半期についての予想、NVIDIA の 2020 年会計年度についての予想、NVIDIA の 2020 年会計年度第 1 四半期の税率についての予想、株式報酬に関連した税制優遇措置の過不足についての NVIDIA の予想、NVIDIA T4 GPU が発表され利用可能になること、GeForce RTX™ 2060 GPU がレイ トレーシングおよび AI によって向上した性能とグラフィックスを数千万人のゲーマーの手に届くものとしたこと、GeForce RTX GPU を搭載した多くのノートパソコンと構成、G-SYNC™ エコシステムの拡大、Battlefield V、Anthem および Justice に DLSS が実装されること、Quadro RTX™ 4000 が数百万人のミッドレンジワークステーション ユーザーにレイ トレーシングの利用を可能にしたこと、RAPIDS、GeForce RTX 2060、NVIDIA CUDA 搭載の REDCODE RAW デコード SDK、NVIDIA Jetson AGX Xavier および NVIDIA DRIVE AutoPilot の性能、便益、能力、ティア 1 サプライヤーから発表の NVIDIA DRIVE をベースとしたレベル 2+ 自動運転システムソリューションが利用可能になること、および Mercedes-Benz とともに同社車輻向けの中央集中的なコンピューティング アーキテクチャを構築することなど、本プレスリリースにおける一定の記載は将来の見通しに関する記述であり、予測とは著しく異なる結果を生ずる可能性があるリスクと不確実性を伴っています。かかるリスクと不確実性は、世界的な経済環境、サードパーティに依存する製品の製造・組立・梱包・試験、技術開発および競争による影響、新しい製品やテクノロジーの開発ある



いは既存の製品やテクノロジーの改良、NVIDIA 製品やパートナー企業の製品の市場への浸透、デザイン・製造あるいはソフトウェアの欠陥、ユーザーの嗜好および需要の変化、業界標準やインターフェイスの変更、システム統合時に NVIDIA 製品および技術の予期せぬパフォーマンスにより生じる損失などを含み、その他のリスクの詳細に関しては、Form 10-K での NVIDIA のアニュアル レポートならびに Form 10-Q での四半期レポートなど、米証券取引委員会 (SEC) に提出されている NVIDIA の報告書に適宜記載されます。SEC への提出書類は写しが NVIDIA の Web サイトに掲載されており、NVIDIA から無償で入手することができます。これらの将来予測的な記述は発表日時点の見解に基づくものであって将来的な業績を保証するものではなく、法律による定めがある 場合を除き、今後発生する事態や環境の変化に応じてこれらの記述を更新する義務を NVIDIA は一切負いません。

© 2019 NVIDIA Corporation. All rights reserved. NVIDIA、NVIDIA のロゴ、GeForce、Quadro、CUDA、GeForce RTX、G-SYNC、Jetson AGX Xavier、NVIDIA DRIVE、Quadro RTX、および RAPIDS は、米国およびその他の国における NVIDIA Corporation の商標または登録商標です。その他の会社名および製品名は、それぞれの所有企業の商標または登録商標である可能性があります。機能、価格、可用性、および仕様は予告なしに変更されることがあります。